

前期日程

教科
国語

(人文学部)

注意

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
- 2 問題はページから七ページにわたっている。問題冊子が不備な場合は、直ちにその旨を監督者に申し出ること。
- 3 解答用紙は二枚で、問題冊子とは別になっている。解答は、すべて解答用紙の所定の欄に記入せよ。解答用紙の所定欄以外に記入した解答は、評価(採点)の対象としない。
- 4 受験番号は、解答用紙二枚の受験番号の欄(各二か所)に記入せよ。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

実施年月日
30.2.25
富山大学

1

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

著作物引用箇所のため非表示

著作物引用箇所のため非表示

著作物引用箇所のため非表示

(中西進『文学の胎盤』より)

注 ○上御一人——天皇の尊称

- 問 1 傍線ア、イ、カ、クの片仮名を漢字に直し、シ、スの漢字の読み仮名を平仮名で書きなさい。
- 問 2 傍線部①「常識」とあるが、ここでは具体的にはどのような考えか、二十字以内で記しなさい。
- 問 3 傍線部②「関東一高いといわれる塔」が指すものを文章中から五字で抜き出さなさい。
- 問 4 傍線部③「この小説の主人公をだれと考えればよいのか」とあるが、この小説の主人公は誰であると筆者は考えているか、文章中から抜き出して記しなさい。
- 問 5 傍線部④「その反対」とあるが、十兵衛と源太はどのような点で反対だというのか、三十字以内で簡潔に記しなさい。
- 問 6 傍線部⑤「他人を受けいれながら仕事を完成させていく」とあるが、具体的には源太がどのようなことを指して言っているか、五十字以内で記しなさい。

問7 空欄Ⅰに入る最もふさわしい言葉を、次の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

ア 吐く

イ つく

ウ 切らせる

エ のむ

オ 殺す

問8 空欄Ⅱ、Ⅲに入る最もふさわしいことばをそれぞれ文章中から抜き出して記しなさい。

問9 傍線部⑥「日本の国造り」とあるが、幸田露伴は『五重塔』によって国造りについてのどのような考え方を書いたのか、筆者の解釈を、「個人」という言葉を用いて七十字以内で説明しなさい。

2

は、次のページから始まります。

次の文章は、『源平盛衰記』の「巴関東下向の事」の一節で、河原の合戦に敗れ北陸へ逃れようとする木曾義仲と別れてから後の巴の姿を描いています。これを読んで後の問いに答えなさい。

巴申しけるは、「我幼少の時より君の御内に召し仕はれ進せて、野の末山の奥までも一つ道にと思ひ切り侍り。今かかる仰せを承るこそ心うけれ。君のいかにも成り給はん処にて首を一所に並べん」と掻き詢き云ひければ、木曾「誠にさこそは思ふらめども、」^①「我去年の春信濃国を出でし時、妻子を捨て置く。又再び見ずして永き別れの道に入らん事こそ悲しけれ。されば無からん跡までもこの事を知らせ、後の世を弔はばやと思へば、最後の伴よりも然るべきと存するなり。」疾う疾う忍び落ちて信濃へ下り、この有様を人々に語れ。敵も手繁く見ゆ。早々と宣ひければ、巴遣りは様々惜しけれども、^②主命に随ひ、落つる涙を拭ひつつ、上の山へぞ忍びける。栗津の軍終りて後、物の具脱ぎ捨て、小袖装束して信濃へ下り、女房、公達にかくと語り、互ひに袖をぞ絞りける。世静まつて右大将家より召されければ、巴即ち鎌倉へ参る。^③主の敵なれば、心に遺恨ありけれども、大将殿も、「女なれども無双の剛の者、打ち解けまじき」とて、森の五郎に預けらる。和田の小太郎これを見て、「事の景気も尋常なり。心の剛も無双なり。あの様の種を継がせばや」とぞ思ひける。明日頸切るべしと沙汰有りけるに、和田の義盛「申し預からん」と申しけるを、「女なればとて心ゆるし有るまじ。正しき主、親が敵なり。」^④さる剛の者なれば、隙もあらば伺ひ思ふ心あらん。叶ふまじ」と仰せられけるを、「三浦の大介義明が、君の為に命を捨て、子孫眷属二心なく君を守護し奉りて、年来奉公し奉る。いかでか思し召し忘れ給ふべき。」^⑤義盛相具して候ふとも、僻事更に在るまじ」と様々申し立て預かりにけり。即ち妻と憑みて男子を生む。朝比奈の三郎義秀とはこれなりけり。母が力を継ぎたりけるにや、剛も力も双びなしとぞ聞えける。和田合戦の時、朝比奈討たれて後、巴は泣く泣く越中に越え、石黒は親しかりければ、ここにして出家して巴の尼とて、仏に花香を奉り、主、親、朝比奈が後世弔ひけるが、九十一まで持ちて、臨終目出たくして終りにけるとぞ。

注 ○右大将——あとの大将殿と同じく、源頼朝のこと。

○和田の小太郎——あとの和田の義盛と同一人物。

○事の景気——見た目の様子。

○尋常なり——すぐれている。

○種を継がせばや——妻にして子供に家を継がせたい。

○三浦の大介義明——和田の義盛の祖父。一一八〇年に源頼朝のために討ち死にしており、頼朝はこれに恩義を感じていた。

問 1 ①の「」でくくった箇所、義仲は巴に何をしてほしいと述べていますか。「この事」の内容を明らかにしながら分かりやすく答えなさい。

問 2 傍線②「主命」とは誰の命令ですか。文中の語を使って答えなさい。

問 3 傍線③「女房、公達」と同義の二文字を、文中のそれ以前の箇所から選んで書き抜きなさい。

問 4 傍線④「主の敵」、傍線⑤「母」とは誰のことですか。それぞれ文中の語を使って答えなさい。

問 5 傍線⑥を口語訳しなさい。

問 6 和田の義盛は、傍線⑦でどうして「申し預からん」と願ったのですか。文中の語を使って答えなさい。

問 7 傍線⑧の中から助動詞四つを抜き出し、それぞれ意味用法・活用形を答えなさい。

問 8 傍線⑨を口語訳しなさい。また、和田の義盛がこのように言上する根拠を分かりやすく述べなさい。

1												
問 9			問 8		問 7		問 6	問 5	問 4	問 3	問 2	問 1
			II									(ア)
												(イ)
			III									(ウ)
40							40					(エ)
												(オ)
			20				20	20			20	(カ)
												(キ)
60												

教科
国
語

(人文学部)
解答
用紙

受 験 番 号									

受 験 番 号									

得 点 欄 1

国 語 (人文学部)
得点欄
1

